

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果(榛沢小学校)

平均正答率

自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

	国語	算数・数学	理科
榛沢小	上回った	上回った	上回った
埼玉県	68	58	58
全国	66.8	58	57.1

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	榛沢小	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	100	94.3	93.7
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	77.7	83.9	81.9
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	100	91.9	91
学習習慣	分からぬことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている	77.8	84.8	81.7
	学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上、勉強をする(学習塾や家庭教師、ICTを活用して学ぶ時間も含む)	88.9	56.2	54
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする	77.8	49	47.1
	学校の授業時間以外に、普段1日当たり30分以上、読書をする	33.3	31.9	31.1
教科への関心	国語の勉強は好きだ	66.6	59.3	58.3
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	83.4	92.1	90.4
	算数・数学の勉強は好きだ	77.8	58.7	57.9
	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	88.9	93	91.6
	理科の勉強は好きだ	88.9	81.4	80.1
	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	72.2	81.7	79.9
主体的・対話的な学び	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	88.8	84.7	80.3
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	88.9	75.7	68.6
	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	83.3	82.8	77.8
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができた	94.4	87.9	84.9
その他	自分には、よいところがあると思う	88.9	88.5	86.9
	将来の夢や目標をもっている	83.3	84.7	83.1
	人の役に立つ人間になりたいと思う	100	96.8	96.4
	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	94.5	83.5	81.3

【質問紙分析】

- ・「学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上、勉強をする」および「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする」の割合が、全国や県の割合と比べて大幅に高い。令和4年度から継続して家庭学習の充実を図るための職員研修や家庭への周知を行っていることや、当該学年では5年生から「けテぶれ学習」に取り組んでいることが、児童の家庭学習に対する主体的な取り組み姿勢につながっていると考えられる。
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」の割合が全国や県の割合と比べて高い。本校で進めている「ふるさと教育」の取組において、地域の方から指導をいただく機会を引き続き多く設けていることが、「地域や社会に貢献したい」という児童の意欲につながっていると考えられる。
- ・「国語、算数、理科の勉強は好きだ」の割合は全国や県の割合と比べて高いものの、「国語、算数、理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」の割合が全国や県の割合と比べて低い。授業の中で学習内容と社会生活における事柄を関連付け、学びの意義を実感できるような指導を一層工夫する必要がある。
- ・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」の割合が県や全国の平均を下回った。児童が自ら学習の計画を立てたり効果的な学び方を工夫したりできるよう、今後も「けテぶれ学習」等の手法を活用しながら、その力を伸ばしていく必要がある。

*「けテぶれ学習」・・・計画・テスト・分析・練習の頭文字をとった学習法。子供自身が学習のゴールを決めて計画を立て、自分の力を確認・分析し、練習をするサイクルを繰り返していく。子供の学習にPDCAサイクルを当てはめたもの。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題〇と課題のある問題●とその理由

国語

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題

- 1三（1）出題の趣旨は「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかを見る」であるが、目的を意識した聞き取りの学習に取り組んできたことで、必要な情報を的確に捉える力が養われていたと考えられる。
- 2二 出題の趣旨は「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る」であるが、資料（図・表）を活用して自分の考えを書く練習を積み重ねてきたため、論理的に整理された文章表現ができたと考えられる。

課題点

- 3二（2）出題の趣旨は「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかを見る」であるが、文章中

の事実と筆者の意見との関係を読み取る学習経験が十分でなく、文章全体の構成を踏まえて要旨を把握することが難しかったと考えられる。

- 3三（1）出題の趣旨は「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかを見る」であるが、文章の内容と図表を関連付けて情報を読み取る学習の機会が不足していたため、目的に応じて文章と図表から必要な情報を探し出すことに課題があったと考えられる。

算数

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題

- 1（1）出題の趣旨は「棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかを見る」であるが、日頃から棒グラフの読み取りに慣れ親しみ、異なる項目の数値を比較する学習を行ってきたことで、グラフから適切に関係性を読み取ることができたと考えられる。
- 3（1）出題の趣旨は「小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかを見る」であるが、学校で小数の位取りや単位換算に注目した指導を徹底し、共通の単位に揃えて計算する練習を十分に積んでいたため、小数同士の加法において数の大きさを揃えて正しく計算できたと考えられる。

課題点

- 3（2）出題の趣旨は「分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つかを数や言葉を用いて記述できるかどうかを見る」であるが、分数の単位に着目した指導や、自分の言葉で説明する活動が十分でなかったため、計算手順は追えても共通の単位分数でそれぞれいくつ分かを捉えて表現することが難しかったと考えられる。
- 3（3）出題の趣旨は「数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つかとして捉えることができるかどうかを見る」であるが、分数の意味や表し方の理解が不十分で、数直線上で分数を表す学習経験も不足していたため、1を基準にした単位分数の積み重ねとして分数を捉えきれなかったことが考えられる。

理科

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題

- 1（1）出題の趣旨は「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかを見る」であるが、実験計画を立てる際に条件をそろえる重要性を指導していくため、赤玉土と水の量を一定にする適切な方法を発想し、粒の大きさによる違いを調べる実験方法を表現できたと考えられる。
- 4（3）ク 出題の趣旨は「『水は温まると体積が増える』を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかを見る」であるが、水を加熱すると体積が増える現象を、実験を通して学ばせ生活経験と結びつける指導を行ったため、知識を活用して海面上昇の理由を適切に予想し表現できたと考えられる。

課題点

- 2 (1) 出題の趣旨は「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかを見る」であるが、金属の性質（電気を通すか否か、磁石に付くか否か）について実物を使った学習を4・5年生でも取り上げて学習する時間が不足していたため、すべての金属が電気を通す／磁石に付くわけではないという知識があいまいで、正しい判断ができなかったと考えられる。
- 2 (2) 出題の趣旨は「電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかを見る」であるが、電気の回路づくりにおいて、自分で目的に応じた実験方法を考案する学習経験が不足していたため、必要な条件を踏まえた回路の作り方を具体的に計画・表現することができなかったと考えられる。

課題への取組・改善策

・「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善

授業の中で、自ら課題を見つけて情報を収集・整理する時間と、対話の時間を確保し、思考力・判断力・表現力を育成する。また、振り返りの時間を大切にし、学習内容を社会生活と結び付けて扱うことで、学ぶ意義を実感できるよう工夫する。

・ICTの効果的な活用

各教科で習熟度に応じたデジタル教材を活用し、学びの手段としてICTを効果的に用いることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。

・指導と評価の一体化を図る

授業のねらいを明確にし、指導にあたり児童には適宜フィードバックを与えて自己調整学習を促す。また、児童自身が目標設定や振り返りを行う機会を確保し、主体的に学習に取り組む態度の育成を行っていく。

・学級経営の充実

教師と児童の信頼関係および児童同士の良好な人間関係を深めるため、日頃から学級経営の充実に努める。学級活動を軸に、互いの意見を尊重し合う話し合いを活性化し、安心して挑戦できる学級づくりを推進する。

・家庭学習の充実

家庭でも児童が主体的に学習に取り組めるよう、計画的な学習方法の指導を充実させる。

・学力向上PJ、GKTの活用

学力向上PJやGKTを活用し、基礎的・基本的な知識技能の定着を図る。各教科で明らかになった課題に対して繰り返し指導を行い、学力の向上を目指す。

